

中国の大地震（M7.8）の原子力関係の影響について（2） rev

20.5.16 9:00

原産協会国際部

四川省にある原子力施設について、関係者を通じて続報を得ましたので以下の通りお伝え申し上げます。

- ①中国核動力研究設計院（N P I C、高速炉実験装置等、成都市）
- ②西南物理研究院（S W I P、核融合実験施設等、成都市）
- ③核燃料製造工場（宜賓市）

1. 聞き取り情報

1) 5月15日（木）朝、中国原子能科学院（北京）での聞き取り情報
（北京訪問中の日本人関係者を通じて）

- 1. N P I Cより被害の報告は来ていない。
- 2. 宜賓からも被害報告はない
- 3. 核安全局の李局長が本日北京を発って、成都に行った。
- 4. 原子能科学院からも専門家2名を派遣した。

2) 5月15日（木）夜の中国原子能科学研究院（北京）の張副院長の話
（同じ日本人関係者を通じて）

- 1. N P I Cより被害報告はない。
- 2. 宜賓も被害はない。

2. 電子メールによる中国の関係機関への問合せ情報

(1) 四川省所在機関

②西南物理研究院（核融合実験施設等、成都市）の知り合いに尋ねたところ、以下の返信を得た。

1) 5月15日（木）17:20 受信メール（原文のまま）

ご心配ありがとうございました。当研究所及び成都市内をはじめ、周りは12日の地震で、まったく大丈夫でした。安全のために翌日の13日は一日休みでしたが14日から正

常出勤に戻りました。

英語のホームページに海外のご心配になっておられる方々へのお知らせ（*）をただいまより掲載していますので御一読くださいますようお願いいたします。よろしければ転載してもよろしいです。

<http://www.swip.ac.cn/cfs/english/>

<http://www.swip.ac.cn/cfs/english/eng/e080515K.htm>

（*）西南研究所英語ホームページの「お知らせ」（概要訳）

- ・ 5月12日、四川省汶川県でM7.8の大地震が発生し、震央（汶川、都江堰など）では深刻な被害がある。震動は、西南物理研究所のある成都でも感じたが、当研究院には職員にも設備にも地震の大きな影響はなかった。地震の後遺症をさらに調べている。
- ・ 成都の他の研究所、企業とともに、当研究院は安全で通常通り研究活動を行っている。
- ・ 地震後多くの友人、研究機関などからメールや電話をいただいた。感謝申し上げます。

2) 5月15日（木）18:50 受信メール （原文のまま）

研究所の人たち、私自身と家族、そして友人たちも地震中心地におる人が一人もいませんからみんな大丈夫です。

成都にある核動力研究所も当研究所にあまり遠くないので、同じく大丈夫です。ご心配しないでください。

12日地震のときはわたし4階の事務室にいました。まったく経験のない大きな揺れで、すぐ地震だったことが分かって早速室内から出て、4階にある安全なところで避難しました。揺れが終ってからビルから降りてもっと広いところに行って、しばらくいました。

「地震が起こった時、慌てて逃げ出すよりは腰を抜かしてしまった人のほうが安全かもしれない」という昔日本語を勉強した時に覚えた本文の内容を思い出して、4階の安全なところにじっとしていました。

でもすべてすごい揺れだけで、建物も人もみな無事でした。

以上